

Monthly Report

- I. グリーフキャンプ報告書「Gift for the Next 100 Years」
- II. Café de Camp 第1回
- III. 春のキッズフェスタ
 - ・ 都道府県キャンプ協会事務局担当者みなさまへ
 - ・ NCAJ CALENDAR
 - ・ TOPICS



本屋で背表紙のタイトルが目飛び込んできて、気になって気になって、中身も確認しないまま、ついその本を買ってしまうということがあります。我が家の本棚では、『とるにたらないものもの』（江國香織）、『霧のむこうに住みたい』（須賀敦子）、『ぐるりのこと』（梨木果歩）、『きみが住む星』（池澤夏樹）、『きのうの神さま』（西川美和）、『月の砂漠をさばさばと』（北村薫）、『撃たれると痛い』（パーネル・ホール）といったところが、「タイトル買い」した本のラインナップです。こうして選んだ本がおもしろかった“打率”は正確にはわかりませんが、まずまずの成績のような気がします。

『ひとりでは生きられないのも芸のうち』（内田樹）も、タイトルが気になって買った本です。なかなかテンポのいい語呂ですし、ちょっと皮肉っぽく感じられたのも魅力的でした。

「～も芸のうち」というとき、前半に来るのはたいてい「あまりいい評価をされていない」ことです。「つまり“ひとりでは生きられない”のは世間的には評価が低いけれど、それでもないと言いたいわけだね、この本は。」と思いながら読み始めました。

キャンプは「ひとりでは生きられない」人を育てるものです。そう言うと、「自立に役立つ技能が身に付くではないか」と反論が出てくるかもしれませんが、しかし、その技能をいかに利他的に活用できるかという学びもセットになっているはず。それは、社会性を身につけることに他なりません。

よいキャンプは、キャンプのもつ非日常性や不便を楽しむ空気をうまく利用して、助け合わなければならない状況をつくったり、ほかの人を蹴落とすようなタイプの競争を排除した挑戦を巧みに組み入れていたりするものです。キャンパーはその経験を通じて、「ひとりでは生きられない」という芸を身につけるわけです。

それでこの本はというと、いろんなテーマが雑多に盛り込まれており、中身を要約するのは難しい。ただ、まわりを蹴落としてひとりで生きられるようになって、結局しんどいよねえということが伝わってきて、なかなかおもしろいものでした。

と、昔に買った本のことを思い出したのは、つい先日『今朝の秋』という、笠智衆主演の古いドラマを見たからなのです。

蓼科でひとり暮らしをしている笠智衆が、息子への余命宣告をきっかけに、別れた妻（杉村春子）と再会します。そして息子の葬儀のあと、笠智衆が杉村春子に「蓼科に来ないか」と言うのですが、「男をつくって出て行った手前、簡単にハイそうですねとはいかない」と断られてしまいます。そしてラストシーンで笠智衆が東京に帰る杉村春子を見送るのですが、その表情がなんとも言えず柔らかく、印象的でした。

穏やかに暮らしていくためには、「ひとりでは生きられない」という諦念にたどり着くことも必要であると、しみじみ感じさせるシーンでした。

事務局長 金山竜也

I. グリーフキャンプ報告書「Gift for the Next 100 Years」

2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに始まったグリーフキャンプの取り組みは、2年を超えました。普及には、周辺環境の整備も含めてまだまだの部分が多くありますが、キャンプを通じたよりよい社会づくりに大いに貢献しうる取り組みだと考えています。そこで、これまで行ったキャンプの様子やキャンプがグリーフケアの場としてふさわしい理由、今後の課題などをまとめた報告書を作成しました。

グリーフケアは東日本大震災によって、大きくクローズアップされることになりましたが、その少し前からさまざまな取り組みが広がっていました。これは、地域コミュニティが崩壊したり、ほとんどの人が病院で死を迎え日常から死が遠ざけられたり、葬送の儀式が簡略化されたりといった社会の変化が、亡くなった人とうまく「さよなら」ができない状況を生んでいることを反映しています。医療技術の発達や、まもなく生命がコントロール可能になるかのような幻想を私たちに与えていることも影響しているのかもしれませんが。現在は、東日本大震災で大切な人を亡くした子どもたちを対象にキャンプを行っています。対象はさらに広がる可能性を持っています。



A4版 80ページ

タイトルの「Gift for the Next 100 Years」は日本キャンプ協会45周年の際に掲げたキャッチフレーズで、このキャンプと直接に関係があるわけではありません。しかし、グリーフキャンプというアイデアを受け取って、子どもたちにキャンプを提供すること、そして、そのキャンプが大切な人を亡くした子どもたちの将来の可能性を狭めない力になり得ることは、すばらしい贈り物のパスだと思います。このパスを回し続けることができれば、グリーフキャンプは次の100年のための贈り物になるはずです。

表紙は、私たちがお手本としているグリーフキャンプ、El Tesoro de la Vidaのボランティアの方々がプレゼントしてくれた吹き流しの写真です。ここにはびっしりと、キャンプの成功を祈るメッセージが書き込まれています。キャンプを通じて幸せな社会をつくろうという願いの込められた吹き流しですから、表紙を飾るにふさわしい被写体でしょう。

この冊子をきっかけに、多くの方が贈り物のパスの輪の中に入ってくださいることを願っています。

冊子を配布しています。

ご希望の方は実費（印刷費・送料）として1冊1,000円をご負担いただきますよう、お願いいたします。

※日本キャンプ協会役員、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局には1冊ずつお届けします。

※協会WEBサイトでPDF版(5MB)がダウンロードできます。 www.camping.or.jp/201306griefcamp.pdf

II. Café de Camp 第1回

キャンプに携わっている、あるいは携わりたいと考えている人のサロンとして企画した「Café de Camp」の第1回を6月15日(土)に行いました。新しい試みであること、主に若い人の知りたいことを学んでもらおうということで、新人事務局員の前田・五月女が担当して進めています。

初回は、前田が大学時代に携わっていた障害児者を対象としたキャンプなどの紹介をきっかけに意見交換を行いました。参加者は3人ととても少なかったのですが、こうした交流の場は意外と少ないので、小さく産んで大きく育てたいと考えています。

次回は7月5日(金)の夕方に行います。若い方に多く参加してもらいたいと考えていますので、お声がけくださいますよう、お願いいたします。



次回要項はこちら <http://www.camping.or.jp/20130705cafe.pdf>

Ⅲ. 春のキッズフェスタ～やってみよう なかまとともに 大空のもとで～

6月1日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターで「第2回春のキッズフェスタ」が行われました。出会いと体験の森へ実行委員会が共催団体として携わり、日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟もそれぞれがブースを担当しました。

日本キャンプ協会では「しゅりけんの^{まよ}あて」のブースを運営したほか、東京都キャンプ協会の協力を得て「紐づくり&木のペンダントづくり」のブースを運営していただきました。

お天気に恵まれたこともあり参加者は3,000人近くまで達し、センターの中央広場はあふれんばかりの人でごった返しました。「キッズフェスタ」は春と秋のイベントとして定着してきたという印象です。

ただ、基本的にどれも短時間の「お試し」の活動なので、ここで「楽しい」「もっと知りたいな」と思ったものをじっくり体験する機会も別に設けることができるといいと思います。そうすればキャンプに参加するハードルもずいぶん低くなってくるとは思いませんか。



どのブースも行列が絶えませんでした



野点は親御さんにとっても初体験

各都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ

BUC事業の申請は2か月前までにお送りください

秋にかけてBUC事業の計画を立てておられる県協会も多いかと思います。十分な広報期間を確保するため、事業の概要が決まりましたらお早めにBUC事業の申請を行うよう、よろしくお願いいたします。

申請はメール(ncaj@camping.or.jp)でお送りいただければ結構です。その際、開催要項をPDF化したものを添付していただけると助かります。(ワープロファイルの場合、別のパソコンで開くと文字やレイアウトが変わってしまうことがあります) よろしくお願いいたします。

(事業担当：前田)

NCAJ CALENDAR

これまで

5/28	NPO 法人自然体験活動推進協議会理事会・総会	@国立青少年センター
5/28	NPO 法人東京都キャンプ協会総会	@国立青少年センター
6/1	CAMPING 153 号発行 特集：キャンプと気象と安全	
6/1	春のキッズフェスタ	@国立青少年センター
6/5	課程認定団体研修会	@国立青少年センター
6/5	第2回業務執行理事会(常務会)	@国立青少年センター
6/7	東京YWCA キャンプ運営委員会	@東京YWCA 会館
6/13	体験の風をおこそう運動推進委員会	@国立青少年センター
6/14	メルマガ CAMPING News Vol.68 発行	
6/15	第1回 Café de Camp	@国立青少年センター
6/17	第2回 CAMPING 編集委員会	@国立青少年センター

これから

7/5	第1回 CONE 安全委員会	@国立青少年センター
7/5	第2回 Café de Camp	@国立青少年センター
7/5	メルマガ CAMPING News Vol.69 発行	
7/12	東京YWCA キャンプ運営委員会	@東京YWCA 会館
7/13	指導者養成制度検討タスクミーティング	@国立青少年センター
7/20	BUC「都道府県キャンプ協会と目指すべき連携のあり方」	by 福岡県キャンプ協会 @福岡大学
7/21	キャンプ安全の日	
7/28-8/3	El Tesoro de la Vida (グリーフキャンプ)	@米国・テキサス州

TOPICS

[採用情報]東京YWCAキャンプ事業責任者募集

公益財団法人東京YWCAでは、2014年4月採用のキャンプ事業責任者を募集しています。



東京YWCA
The Young Women's
Christian Association of Tokyo

東京YWCA野尻キャンプで実施するキャンプ事業全般の運営やボランティアリーダー養成が主な仕事です(東京YWCAの行うキャンプ以外の事業の業務を行うこともあります)。責任者としての採用となりますので、キャンプ事業の実務経験が必須となります(新卒不可)。

応募を希望される方は電話連絡の上、必要書類(①自筆履歴書 ②職務経歴書 ③最終校の卒業証明書 ④作文「応募の動機(800字～1200字)」を東京YWCAまでお送りください。

応募締切は9月10日(必着)です。

募集要項: http://www.tokyo.ywca.or.jp/upfiles/1001_1370485032.pdf

問合せ先: 公益財団法人東京YWCA 管理部総務課人事採用担当 根本博子 電話: 03-3293-5435



10月は「体験の風をおこそう」運動推進月間です

青少年の体験活動を推進する団体によって進められている「体験の風をおこそう」運動(事務局: 国立青少年教育振興機構 教育事業部普及課)は、10月を推進月間と定めて、子どものための体験活動に関するさまざまな事業を実施します。特に10月26日(土)を事業統一実施日として、全国各地で子どものための体験活動のイベント実施を呼びかけています。

この期間に体験活動のイベントを計画されている団体などがありましたら、ぜひエントリーください

詳細はこちら <http://www.niye.go.jp/files/items/307/File/h25taikenkaze-yoko.pdf>

1. 推進月間事業のエントリー

「エントリー申込書」に必要事項をご記入の上、①E-mail、②FAX、③郵送のいずれかの方法で事務局までご提出ください。エントリーの締切は、平成25年10月30日(水)必着です。

エントリー用紙はこちら <http://www.niye.go.jp/files/items/307/File/h25taikenasobi-entry.doc>

2. 「子ども体験遊びリンピック」エントリー

「子ども体験遊びリンピック」は「体験の風をおこそう推進月間」の中心的な行事として、自然体験や生活体験等の楽しさや達成感を実感してもらうとともに、体験活動推進の機運を全国的に高めることを目的として、さまざまな競技性のある体験活動を実施する事業です。

詳細はこちら <http://www.niye.go.jp/files/items/307/File/h25asobi-yoko.pdf>

エントリー用紙はこちら <http://www.niye.go.jp/files/items/307/File/h25taikenasobi-entry.doc>



公益社団法人日本キャンプ協会 Monthly Report vol.15 2013/6/25
発行者: 公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長 金山竜也
お問い合わせ・電話: 03-3469-0217 e-mail: ncaj@camping.or.jp

Monthly Report vol.16 は7月25日(木)ころの発行を予定しています。